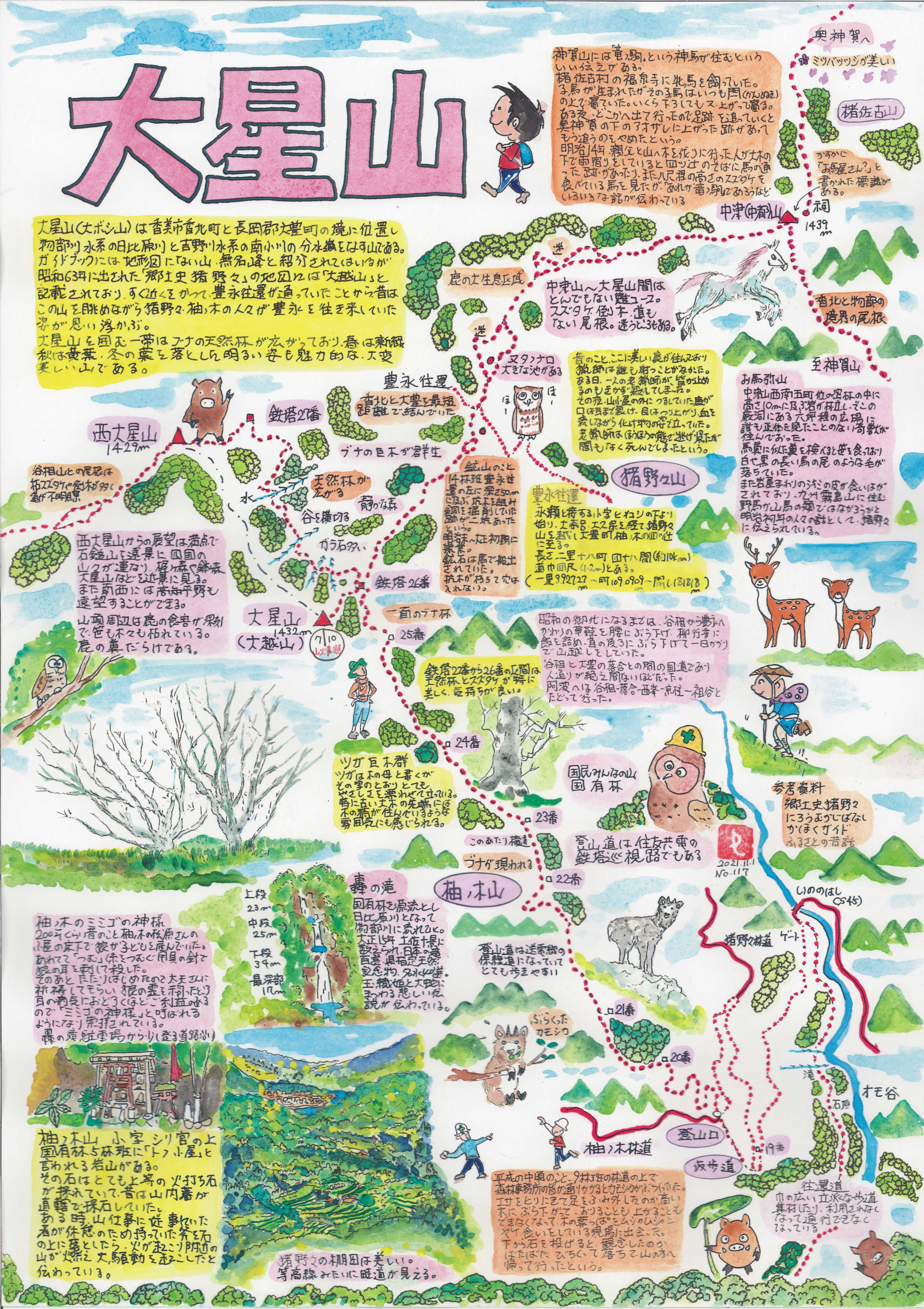
大星山


奥神賀へ
ミツバツツジが美しい
楮佐古山
かすかに「お馬屋さん?」と書かれた標識がある。
祠
中津(中都)山
1439m
迷
鹿の大生息区域
香北と物部の境界の尾根
至神賀山
ヌタンナロ 大きな池がある
ほー ほー
豊永往還
香北と大豊を最短距離で結んでいた
鉄塔27番
西大星山
1429m
谷相山との尾根は枯スズタケや倒木が多く道が不明瞭
ブナの巨木が群生
天然林が広がる
静かな森
水
谷を横切る
ガラ石多い
鉄塔26番
大星山
1432m
（大越山）
7 10 山火事
一面のブナ林
25番
24番
23番
22番
21番
20番
19番
猪野々山
柚ノ木山
国民みんなの山 国有林
このあたり横道
ブナが現われる
ぶらくった カモシカ
いののはし（CS45）
ゲート
猪野々林道
滝
石垣
オモ谷
登山口
柚ノ木林道
坂歩道
往還道
上段 23m
中段 25m
下段 34m
最深部 17m

大星山（大ボシ山）は香美市香北町と長岡郡大豊町の境に位置し物部川水系の日比原川と吉野川水系の南小川の分水嶺をなす山である。ガイドブックには地形図にない山、無名峰と紹介されてはいるが昭和63年に出された「郷土史 猪野々」の地図には「大越山」と記載されており、すぐ近くをかつて豊永往還が通っていたことから昔はこの山を眺めながら猪野々・柚ノ木の人々が豊永を往き来していた姿が思い浮かぶ。

大星山を囲む一帯はブナの天然林が広がっており、春は新緑、秋は黄葉、冬の葉を落とした明るい姿も魅力的な、大変美しい山である。

神賀山には「竜ノ駒」という神馬が住むといういい伝えがある。

楮佐古村の福泉寺に牝馬を飼っていた。子馬が生まれたがその子馬はいつも閂（かんぬき）の上で寝ていた。いくら下ろしても又上がって寝る。ある夜、どこかへ出て行ったので足跡を追っていくと奥神賀の下のアオザレに上がった跡があってもう追うのをやめたという。

明治14年、親父と山へ木を伐りに行った人が大木の下で雨宿りをしていると四ッ辻のそばに馬の通った跡があったり、また八尺程の高さのスズタケを食べている馬を見たが「あれが竜ノ駒」であろうなどいろいろな話が伝わっている

中津山〜大星山間はとんでもない難コース。スズタケ、倒木、道もない尾根。迷うところもある。

昔のこと、ここに美しい鹿が住んでおり猟師は誰も射つことがなかった。ある日、一人の老猟師が、皆が止めるのもきかず殺してしまった。その夜、山小屋の外につるしていた鹿が口は耳まで裂け、目はつり上がり、血を流しながら化け物の姿で立っていた。老猟師はほうほうの態で逃げ帰ったが間もなく死んでしまったという。

お馬弥山

中津山西南五町位の密林の中に高さ10mに及ぶ岩が林立し、そこの岩洞にある六坪程の広場に誰も正体を見たことのない奇獣が住んでおった。馬糞に似た糞を検べると笹を食っており白や黒の長い馬の尾のような毛が落ちていた。また岩屋まわりの木々の皮が食いはがされており、九州霧島山に住む野馬か山馬の類ではなかろうかと明治初年の人々の話として、猪野々に伝えられている。

鉱山のこと

14林班豊永往還の左に深250mに及ぶ坑木を組み銅を採削していた跡が二坑あったという。明治末〜大正初期に操業。鉱石は馬で搬出されていた。坑木が朽ちて穴は入れない。

豊永往還

永瀬と接する小字ヒネコシの下より始り、大奈呂、大久保を経て猪野々山を越し大豊町柚ノ木の四ッ辻に至る。長さ二里十八町四十八間（約10km）道巾四尺（1.2m）とある。（一里3.92727km 町109.0909m 間1.81818m）

西大星山からの展望は満点で石鎚山を遠景に四国の山々が連なり、梶ヶ森や鉢森、大星山などを近景に見る。また南西には高知平野も遠望することができる。

山頂周辺は鹿の食害が深刻で、笹も木々も枯れている。鹿の糞だらけである。

昭和の御代になるまでは、谷相から豊永へかわりの草鞋を腰にぶら下げ、柳行李に飯を詰め、首の後ろにぶら下げて一日がかりで山越しをしていた。

谷相と大豊の落合との間の国道であり人通りが絶え間ないほどだった。阿波へは谷相−落合−西峯−京柱〜祖谷とたどって行った。

鉄塔22番から26番の区間は天然林とスズタケが特に美しく、気持ちが良い。

ツガ巨木群

ツガは木の母と書くがその字のとおりとてもやさしさを漂わせて立っている。特に古い大木の先端には木の精が住んでいるような雰囲気にも感じられる。

登山道は住友共電の鉄塔巡視路でもある

参考資料
郷土史猪野々
にろうむかしばなし
かほくガイド
ふるさとの昔話

2021.11.1
No.117

轟の滝

国有林を源流とし日比原川となって物部川に流れこむ。大正15年土佐十景に数えられ、日本の滝百選、県指定天然記念物、名水40選。玉織姫と大蛇にまつわる悲しい伝説が伝わっている。

登山道は送電線の保線道になっていてとても歩きやすい

柚ノ木のミミゴの神様

200年くらい昔のこと柚ノ木の松原さんの小屋の床下で狼が子どもを産んでいた。あわてて「つむ」糸をつむぐ用具の針で狼の耳を刺して殺した。そのあとたたりはじめたので太夫さんに祈祷してもらい狼の霊を祠ったところ耳の病気におどろくほどご利益のあるので「ミミゴの神様」と呼ばれるようになり崇拝されている。

轟の滝駐車場から少し登る道路沿い

柚ノ木山 小字シリ宮の上国有林5林班に「トノ小屋」と言われる岩山がある。その石はとても上等の火打ち石が採れていて、昔は山内藩が直轄で採石していた。ある時、山仕事に従事していた者が休憩のため持っていた斧を石の上に落としたら、火が起こり附近の山が燃え大騒動を起こしたと伝わっている。

猪野々の棚田は美しい。等高線みたいに畦道が見える。

平成の中頃のこと、9林班の林道の上で森林事務所の皆が通りかかるとカモシカがぶらくっていた。エサをとりにきて足をふみ外したのか高い木にぶら下がって、おりることも上がることもできなくなって、木の葉っぱをムシャムシャとヤケ食いをしている現場に出会った。下から石を投げると、観念したのかばたばたびちくって落ちて山の方へ帰って行ったという。

往還道

巾の広い立派な歩道 集材したり、利用されなくなって通行できなくなっている